

令和7年度 和泉市学習状況調査結果概要

○ 児童生徒質問紙調査について

子どもたちの学習や生活状況に関する児童・生徒に対するアンケート調査は、小学校86項目・中学校76項目の質問からなります。

質問の内容は学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するもので、質問ごとに用意された選択肢から一つを選ぶ方式です。過去の全国学力・学習状況調査からも、基本的な生活習慣と学力とは相関関係があることが分かっています。今年度の和泉市の調査結果を全国の公立学校の調査結果、過去の全国学力学習状況調査の和泉市の調査結果と比較し、下記の6項目に沿って、和泉の子どもたちの様子について分析しています。

和泉市の子どもたちの様子について

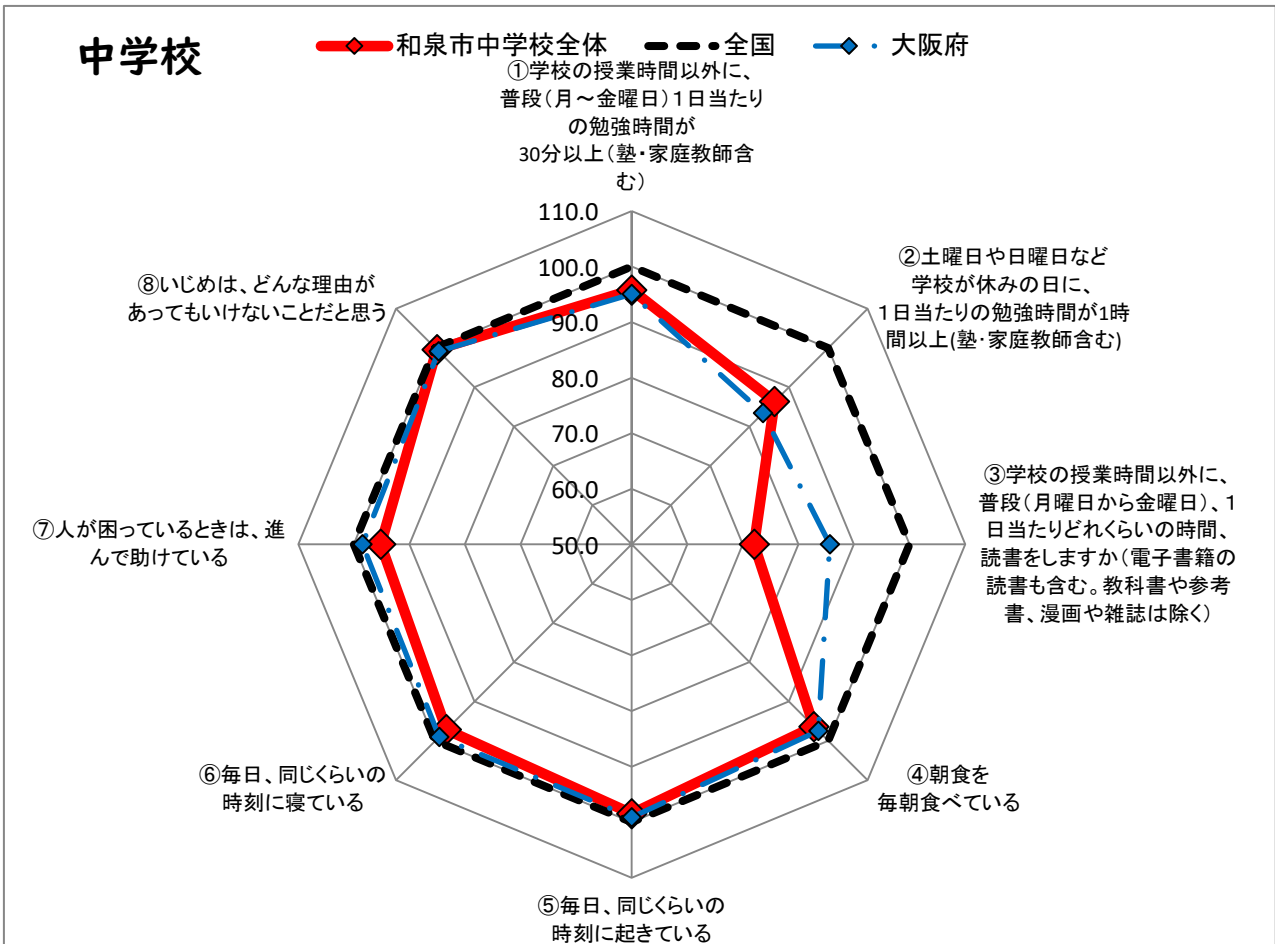
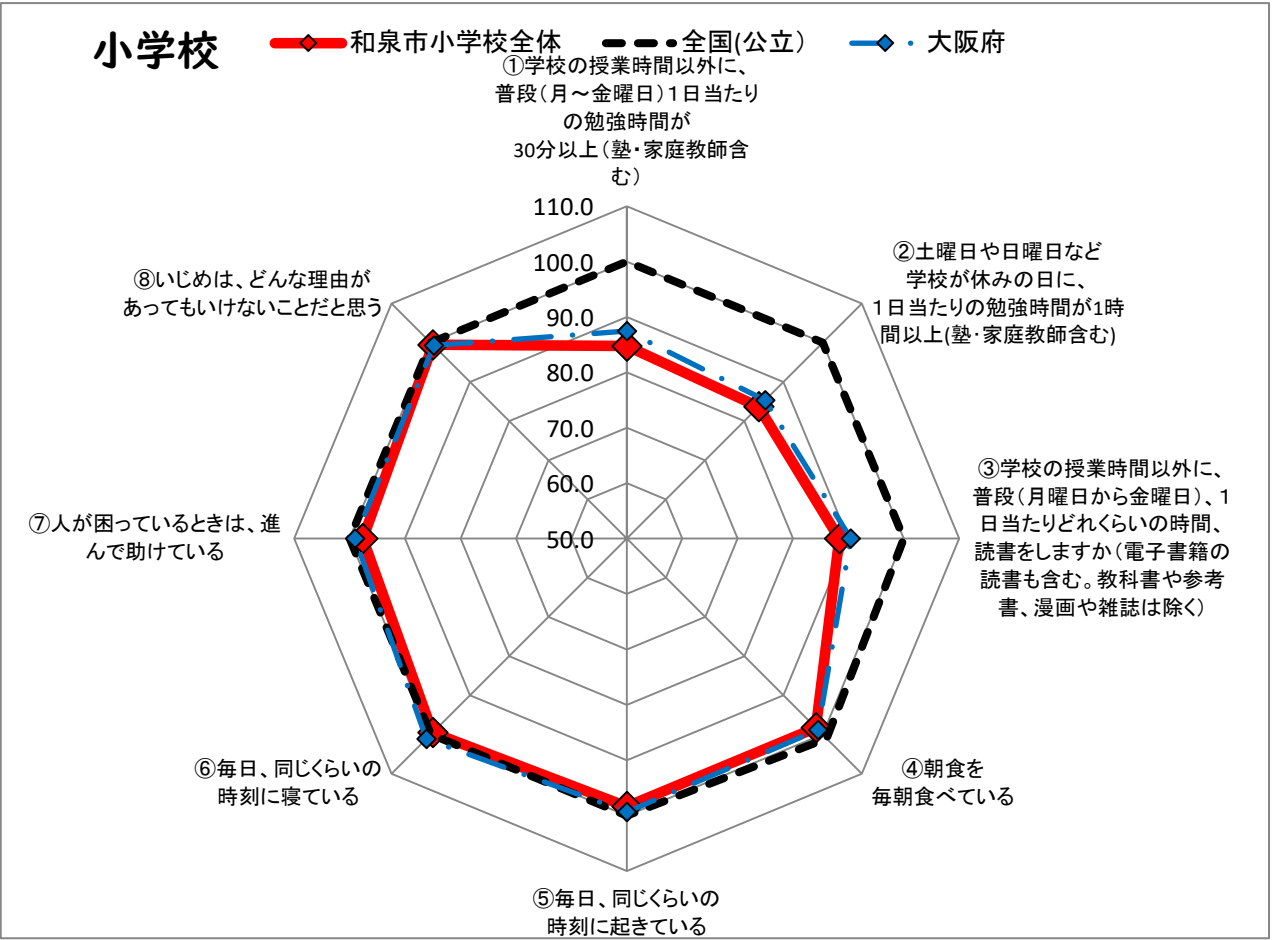
1. 生活リズムが身についている子ども
2. 自分を大切にし、他者を思いやる子ども
3. 多様性を認め、いじめを許さない子ども
4. 自らすすんで学習をする子ども
5. 地域と関わり、よりよい社会をめざす子ども
6. 楽しく学び続ける子ども



※小学校には義務教育学校前期課程、中学校には義務教育学校後期課程を含みます。

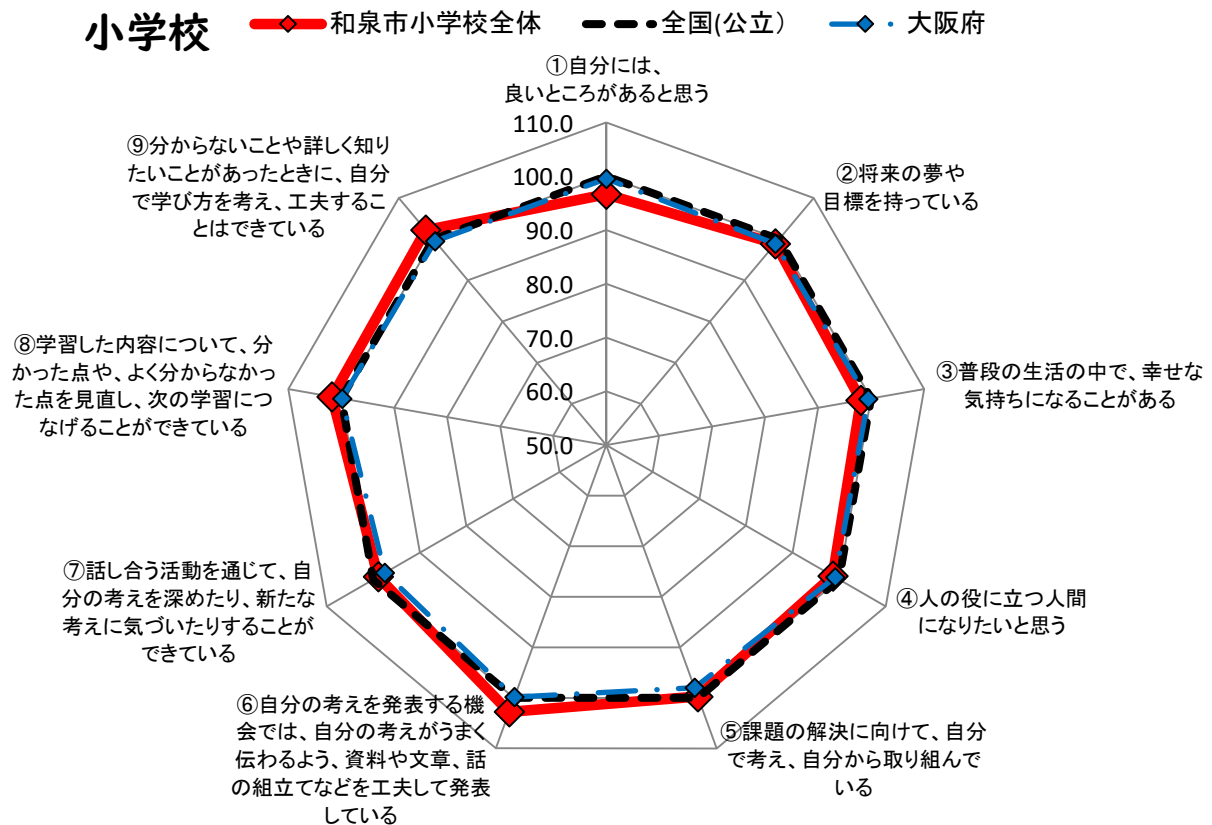
◎児童生徒質問紙の中で、代表的な項目について、市全体の結果をレーダーチャートに表したものです。
※全国(公立)の結果を100として、表しています。

「基本的生活習慣」「学習時間等」「規範意識」について

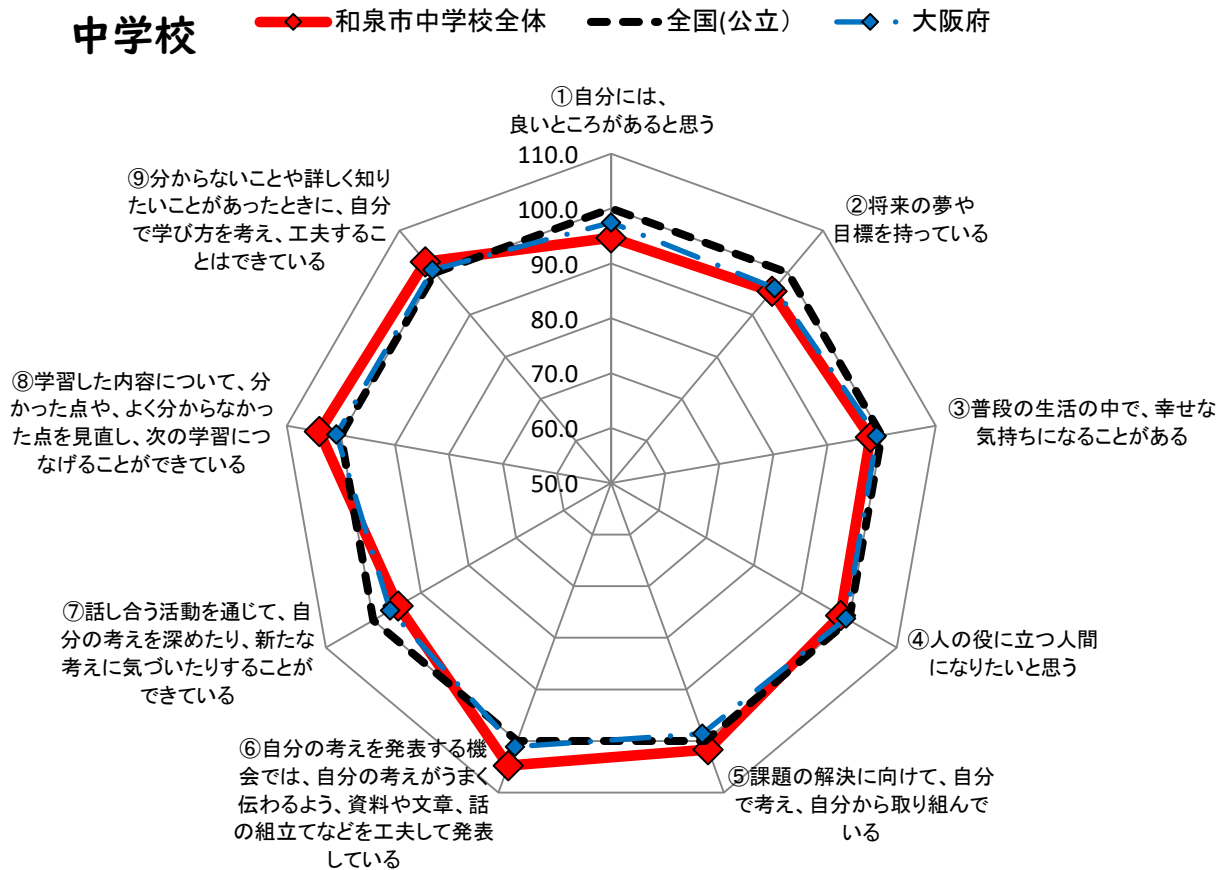


「自分に関すること」「学習状況」について

小学校



中学校

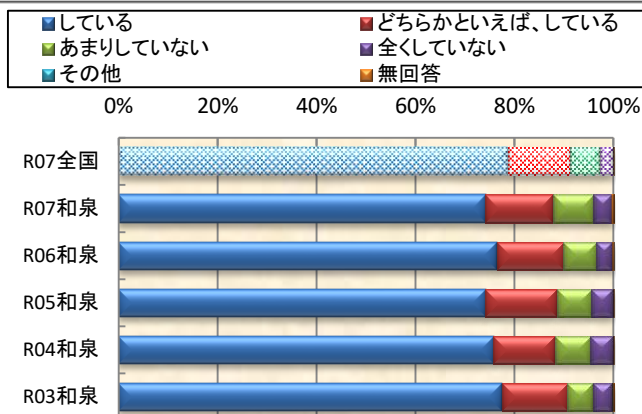
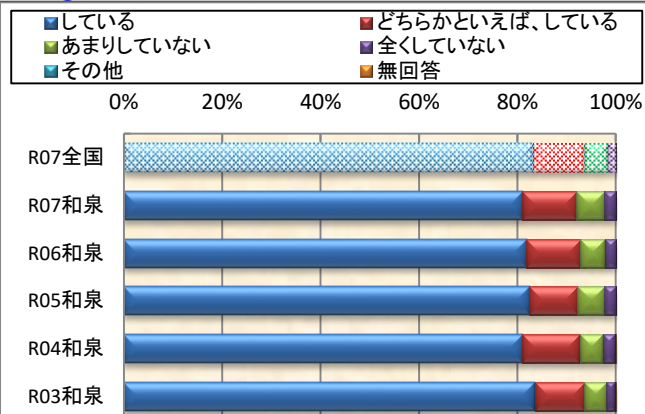


1. 生活リズムが身についている子ども

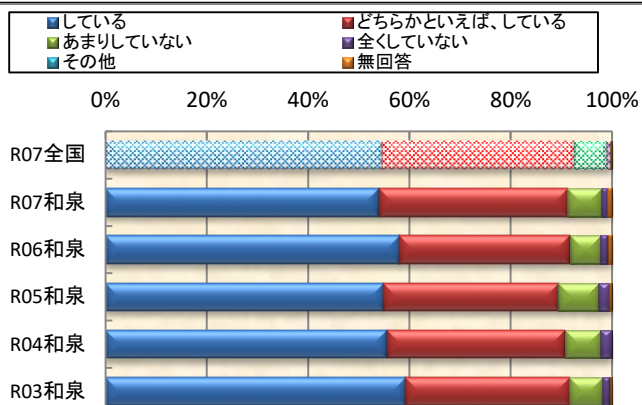
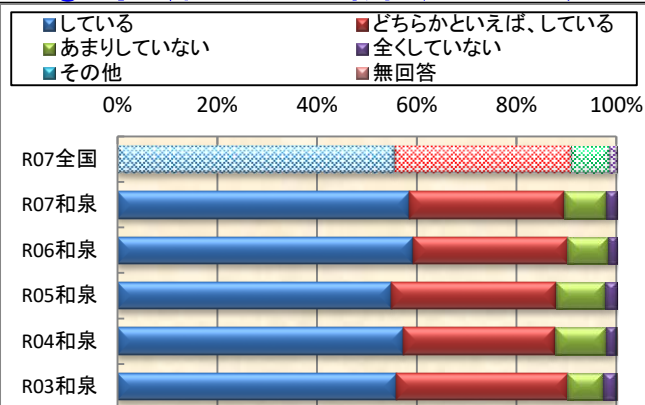
小学校

中学校

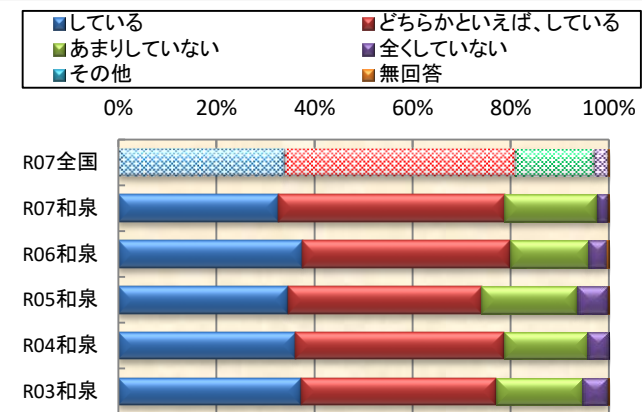
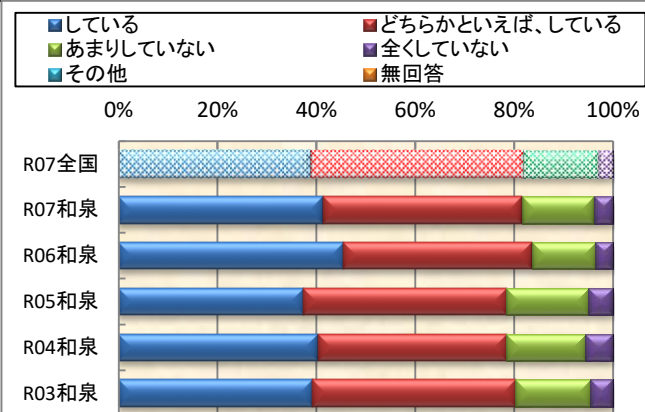
1-① 朝食を毎日食べていますか



1-② 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



1-③ 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



◇1-①では、「朝食を毎日食べている」子どもの割合は、小学校では昨年度とほぼ同様となっています。中学校では少し低下傾向にあります。1-②「毎日決まった時刻に起きる」、1-③「決まった時刻に寝る」の割合は、小・中学校で「あまりしていない」「全くしていない」と回答する割合が昨年度よりも増加しました。今後も規則正しい生活や食の重要性を子どもたちに伝えながら、家庭と協力し、実生活のリズムを整えていくことが大切です。引き続き、「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨し、子どもたちの心と体の健やかな成長を促す指導が必要です。

保護者の皆様へ

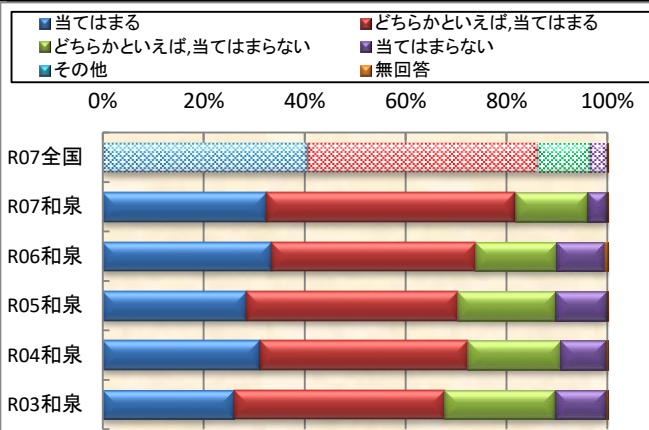
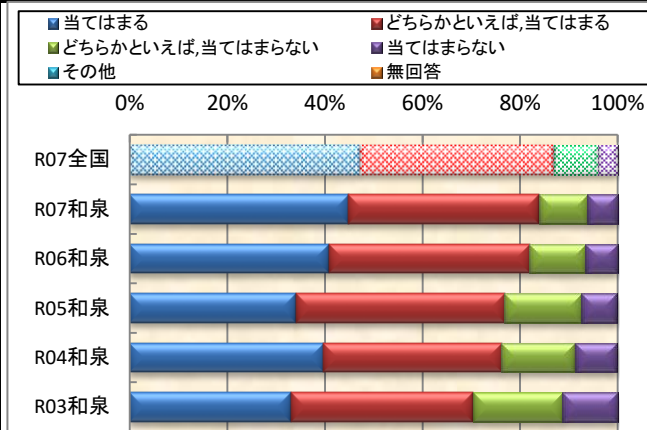
◎朝食を毎日食ふことや早寝早起きなど、望ましい生活習慣を身につけることは、子どもたちの「健康の土台」となるとともに「学びの土台」となります。バランスのとれた食事、十分な睡眠、適度な運動など、規則正しい生活は、子どもの心や体の成長に大切です。充実した毎日を送れるように、ご家庭でもお子さまの生活リズムを整えてあげてください。

2. 自分を大切にし、他者を思いやる子ども

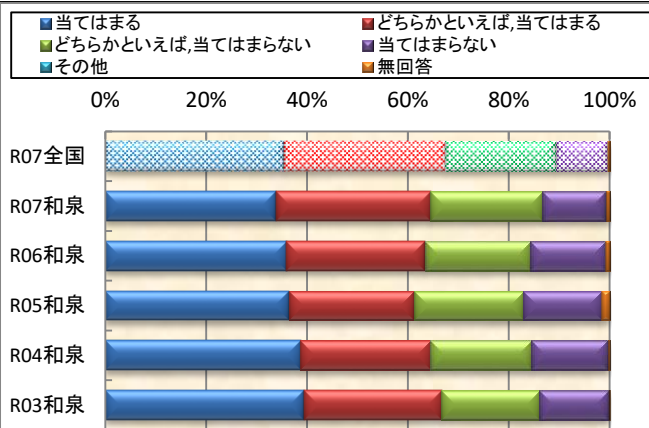
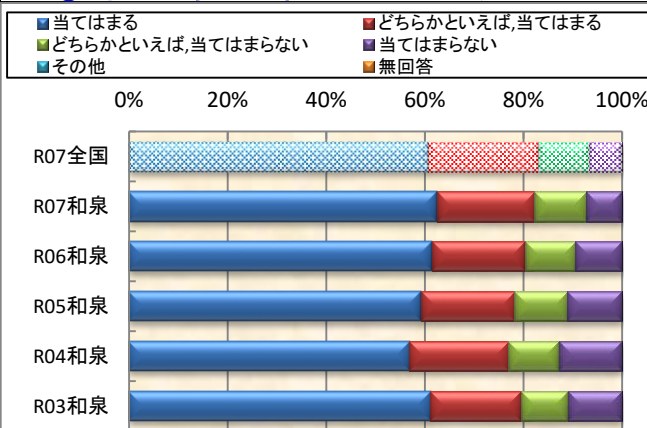
小学校

中学校

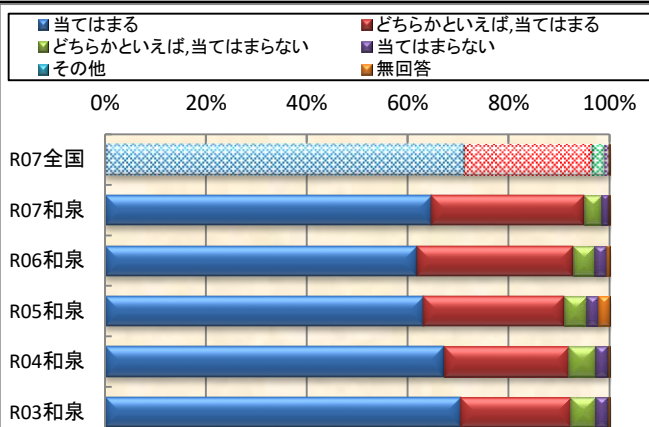
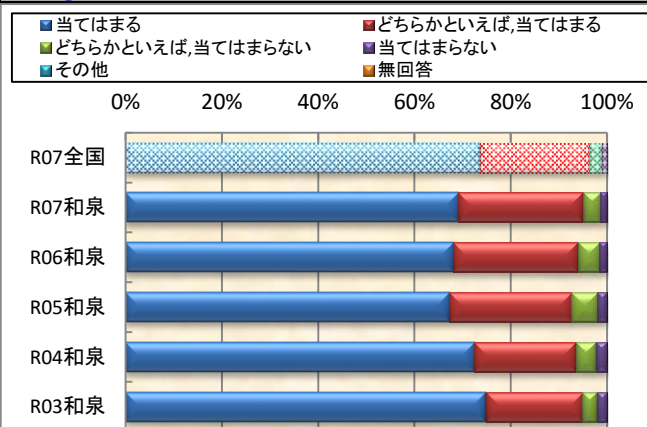
2-① 自分には、良いところがあると思いますか



2-② 将来の夢や目標を持っていますか



2-③ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

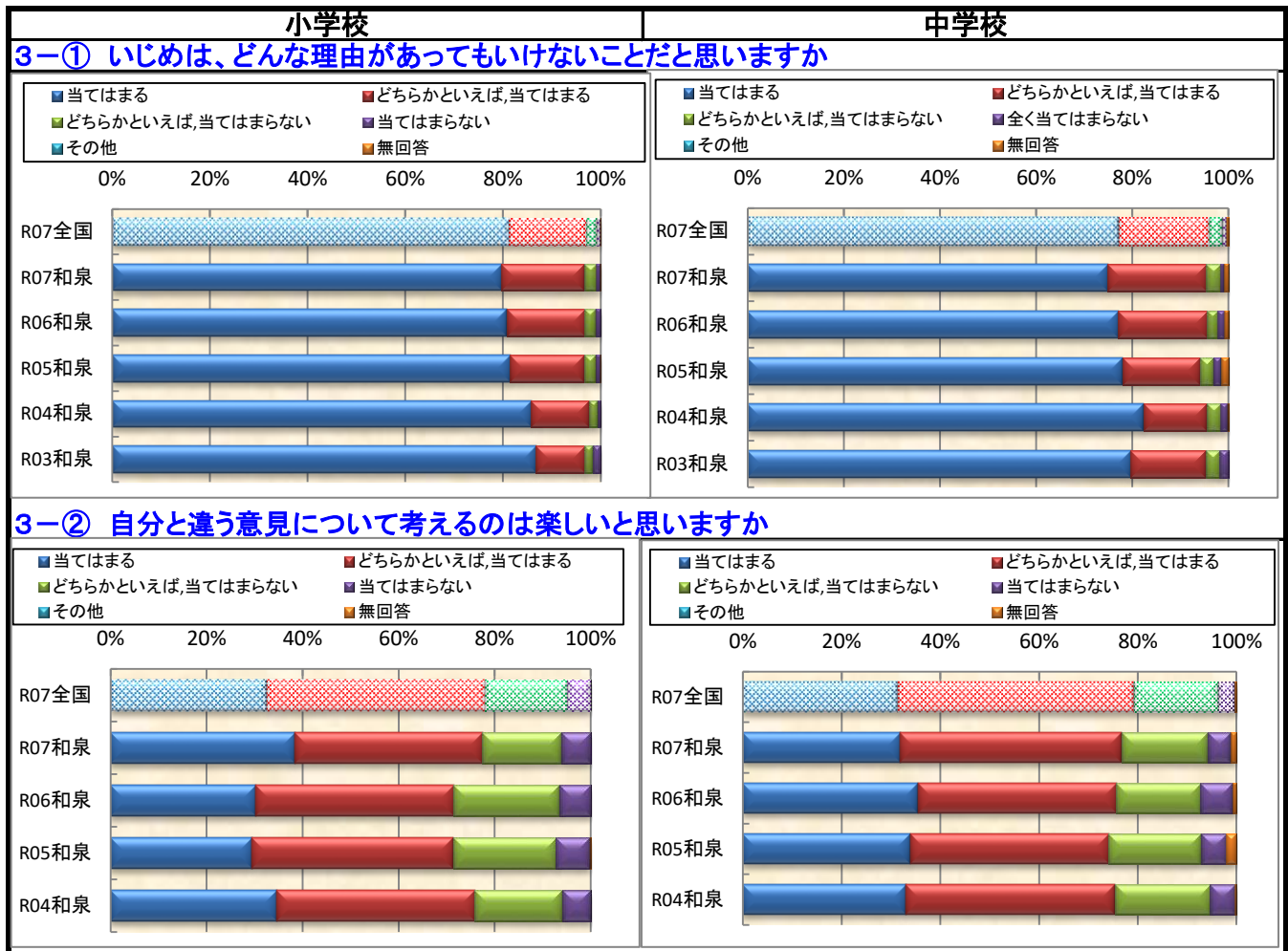


◇2-①「自分には、良いところがあると思うか」の項目、2-②「将来の夢や目標を持っているか」の項目、2-③「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目のいずれも、小・中学校ともに昨年度より肯定的な回答が増加しています。今後も子ども一人ひとりが目標をもち、自己有用感や自己効力感の向上をめざした取組をより一層すすめる必要があります。

保護者の皆様へ

◎自己有用感の向上には、子ども自身が「人の役に立っている」や「大切にされている」という実感を持つことが重要です。そのためには、毎日の生活の中で周りの大人が、子どものがんばりや努力を知り、そのことを積極的に認め、励ます必要があります。「人の役に立っている」という実感は、子どものやる気を育み、さまざまな力を伸ばす原動力となります。また、目標を達成した経験を積み重ねたり、他者から「あなたはできる」等、ポジティブな言葉をかけられたりすることで自己効力感も高まります。自己有用感や自己効力感の向上は、将来の夢や目標を持ち、挑戦していく上で、良い影響を与えます。ご家庭でもお子さまに役割を与え、「すごく助かったよ、ありがとう。」など、声に出してほめてあげたり、様々なことに挑戦する機会を大切にしてください。

3. 多様性を認め、いじめを許さない子ども



◇3-①「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」の項目において、肯定的に回答した割合が、小・中学校ともに、全国とほぼ同水準となっています。また、3-②「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか」の項目については、小・中学校ともに、昨年度より肯定的な回答の割合が増加しました。特に、強い肯定的な回答の割合が、全国を上回り、意見の多様性を認める傾向が表れています。今後も、一人ひとりの多様性を認め、いじめを許さない気持ちを持ち、人権感覚や人権意識を育む取組みを継続していくことが重要だと考えます。

保護者の皆様へ

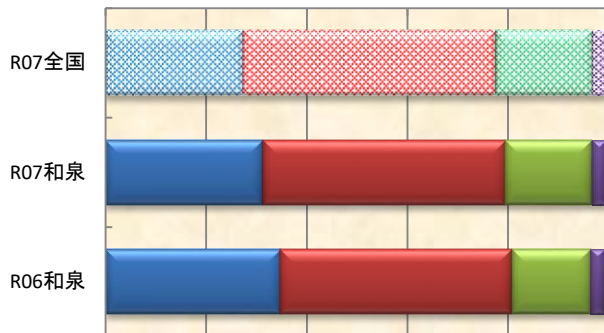
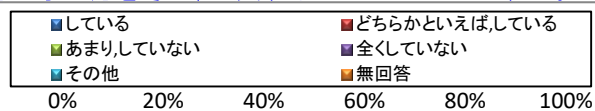
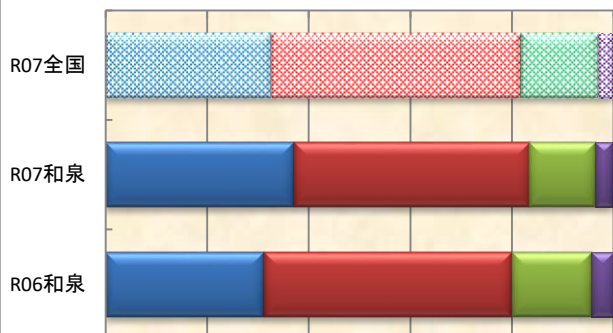
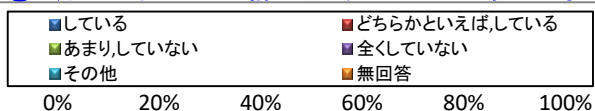
◎多様性を認め、いじめを許さず、自他を尊重しながら「よりよい人間関係」を築くためには、物事の善悪についての的確に判断し、他者と協働しながら自ら正しいと信じることに従って主体的に責任ある行動をとることが大切です。そのためには、日頃から、自由についてや行動の意味、物事の善悪等について、お子さまとともに考え、意見を受け止めながら話し合う機会を持つようにしてください。

4. 自らすすんで学習をする子ども

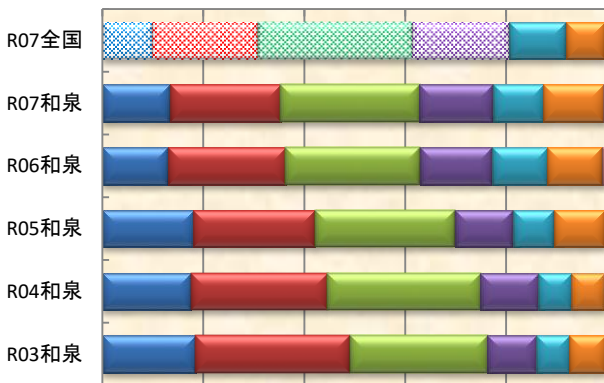
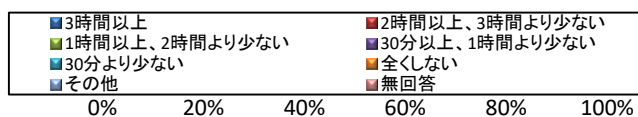
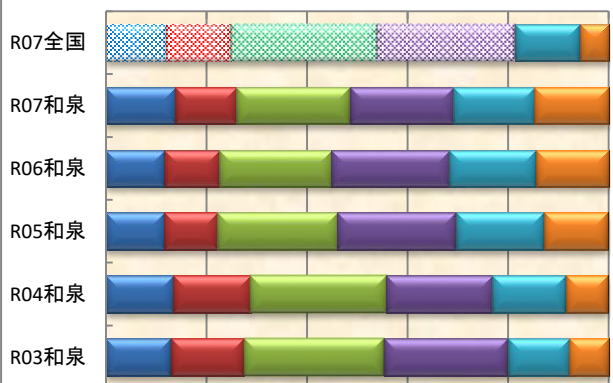
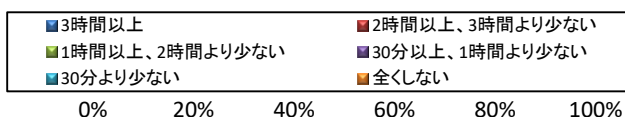
小学校

中学校

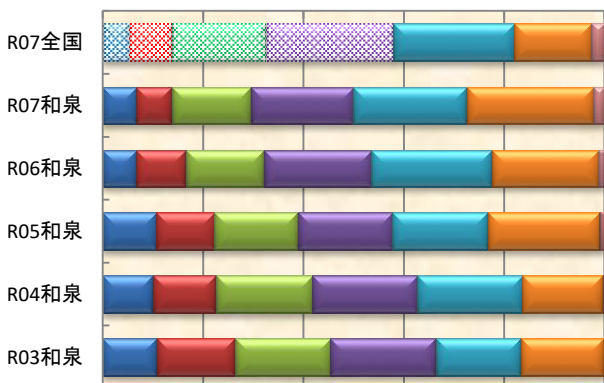
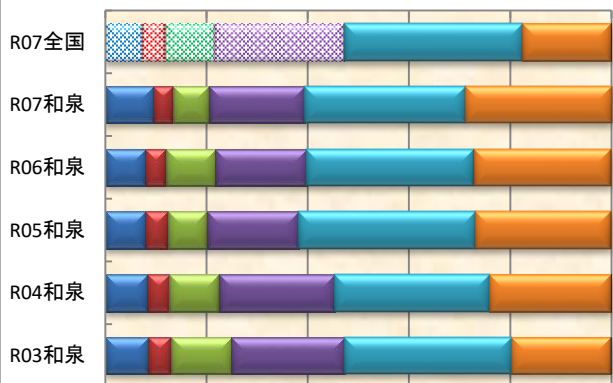
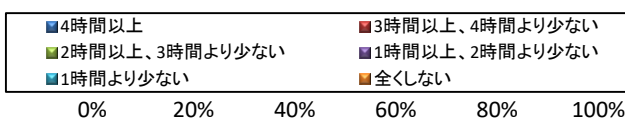
4-① 分からないことや詳しく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



4-② 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



4-③ 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



◇4－①「分からないことや詳しく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫することはできているか」の項目では、肯定的な回答が、小・中学校で全国を上回っています。4－②「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか。」の項目で、小・中学校で「2時間以上勉強する」と回答した割合は全国を上回っています。一方で、「30分より少ない」「全くしない」と回答した割合をあわせると、小・中学校ともに全国より高く、引き続き2極化が課題となっています。4－③「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか。」の項目では、小・中学校ともに3時間以上勉強すると回答した割合が全国と同程度いるものの、「1時間より少ない」「全くしない」と回答した割合は全国よりも高く、家庭での学習時間の少なさが伺えます。

保護者の皆様へ

◎家庭での学習時間を確保できている児童・生徒がいる一方で、家庭学習の習慣が定着していない児童・生徒がいるという2極化が課題です。家庭学習は、学校で出された宿題だけでなく、授業の予習や復習など、自分で計画を立てて勉強することが大切です。また、自分の学習の進み具合や苦手なところなどを確認しながら、家庭学習の習慣づくりをしていくことが必要です。

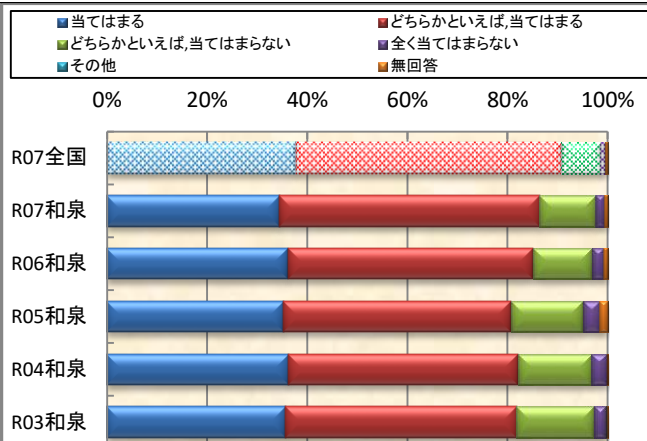
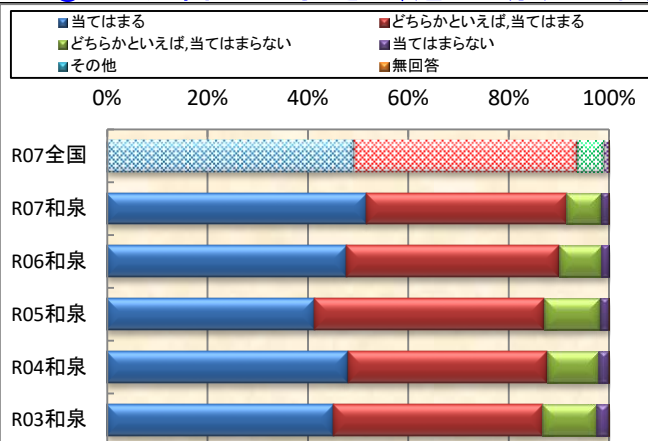
また、「不思議だな」「知りたいな」と興味をもって学習している子どもの姿を見守り、お家の人の温かい声かけなどで支援してあげてください。

5. 地域と関わり、よりよい社会をめざす子ども

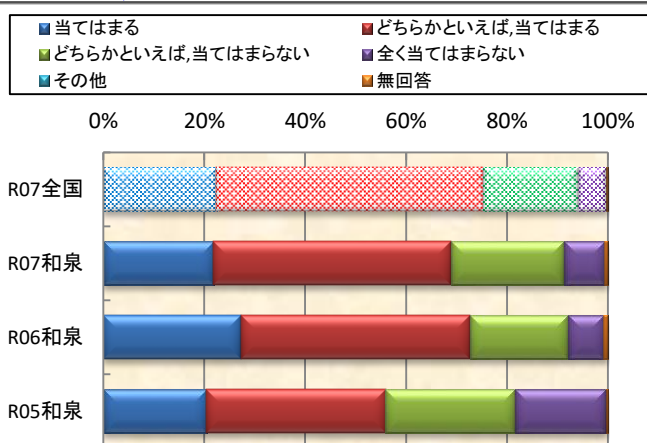
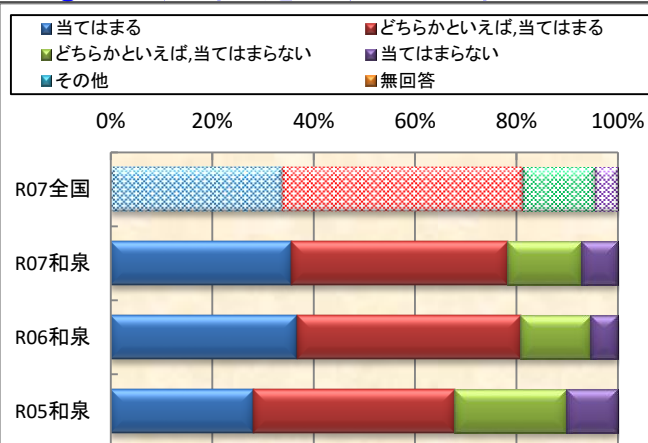
小学校

中学校

5-① 人が困っているときは、進んで助けていますか



5-② 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



◇5-①「人が困っているときは、進んで助けているか」の項目での肯定的な回答は小・中学校ともに徐々に増加しています。5-②「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」の項目は、昨年度と比較して小・中学校ともに肯定的回答が低下しています。総合的な学習の時間などで、地域との関わりをもち、地域の方々と課題解決に向かって協働することを通して、自分自身が住む地域や社会をより良くするための手段などを主体的に考え、行動する力を育てていくことが大切です。自分たちが生活する地域や社会に対して関心が高まるよう、今後も継続して、地域全体で子どもたちを育む取組みの充実が必要です。

保護者の皆様へ

◎近所の方にはあったらあいさつをするなど、普段の小さな関わりを大切に、「地域の一員」であることの実感を高めたり、地域の自然や文化などに積極的に関わり、そこに携わる地域の人々との触れ合いを深める機会を積極的にもつようになさってください。

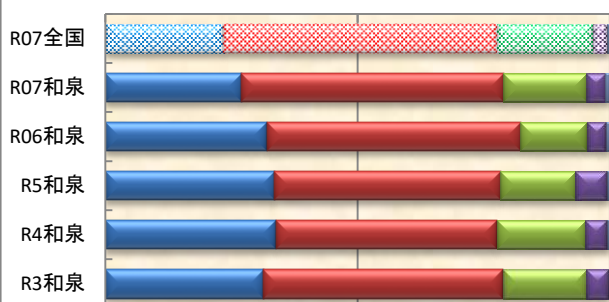
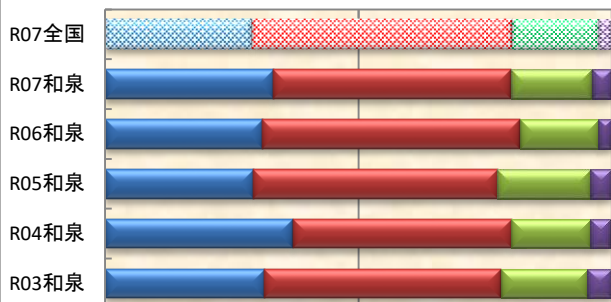
日ごろの小さな積み重ねが、子どもたちが、自分たちが生活する地域や社会に対して関心をもてるきっかけとなります。

6. 楽しく学び続ける子ども

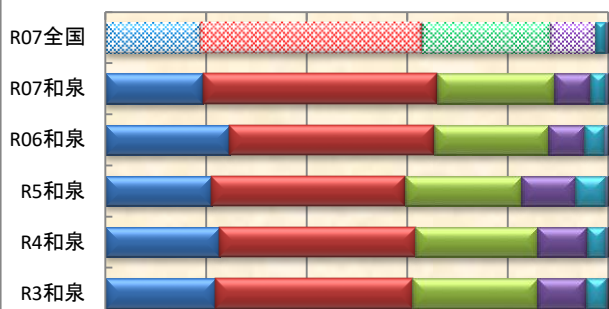
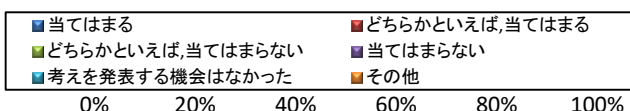
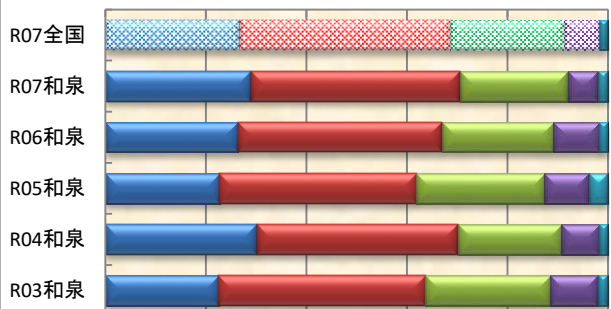
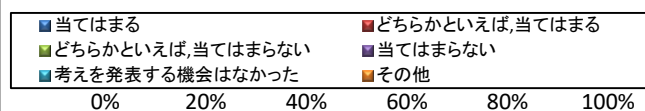
小学校

中学校

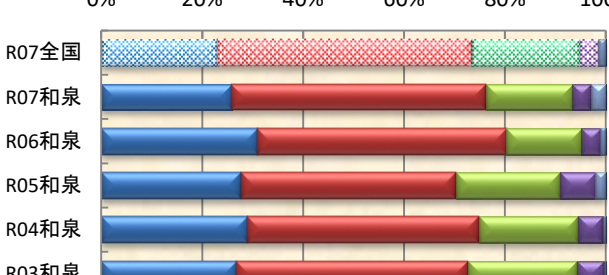
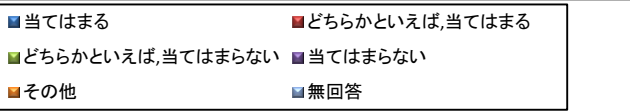
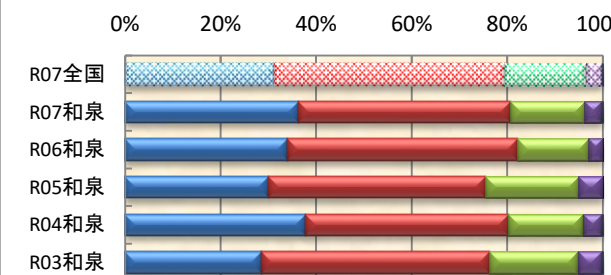
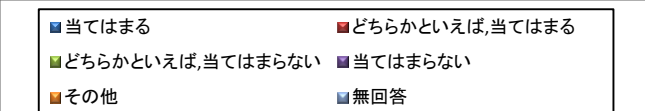
6-① これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいましたか



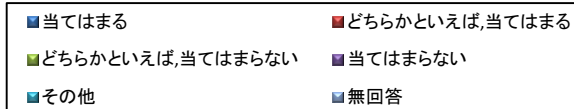
6-② これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



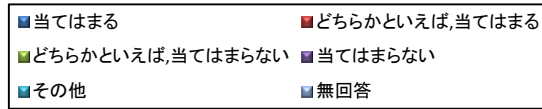
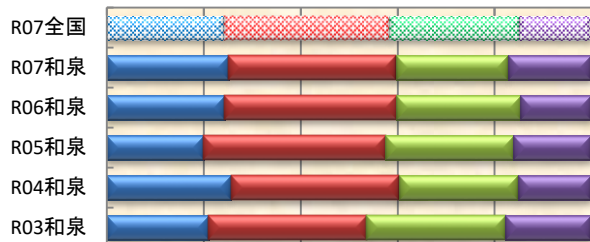
6-③ 学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか



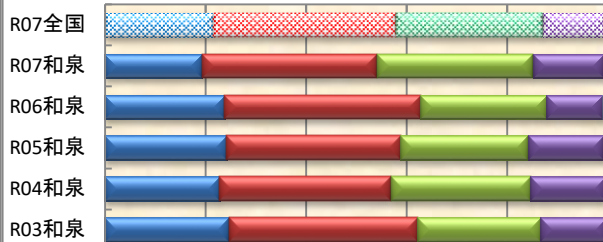
6-④ 国語の勉強は好きですか



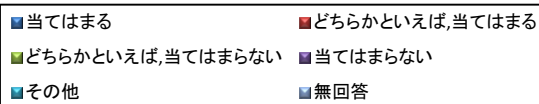
0% 20% 40% 60% 80% 100%



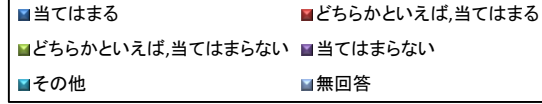
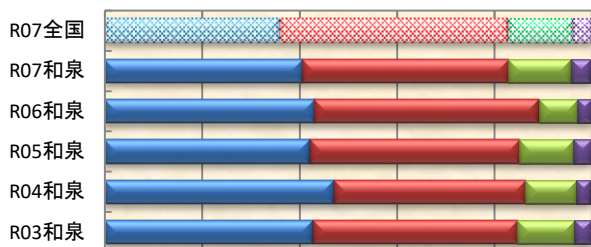
0% 20% 40% 60% 80% 100%



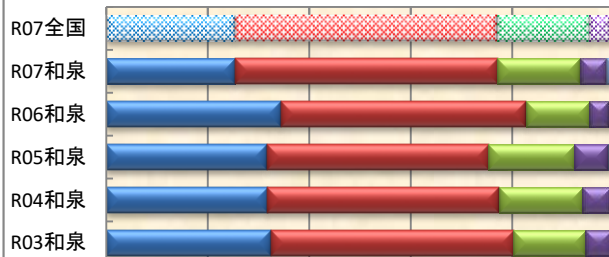
6-⑤ 国語の授業の内容はよくわかりますか



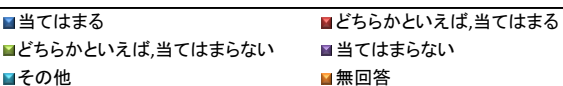
0% 20% 40% 60% 80% 100%



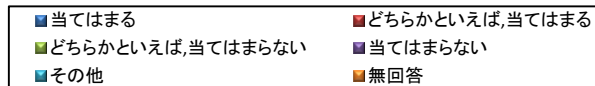
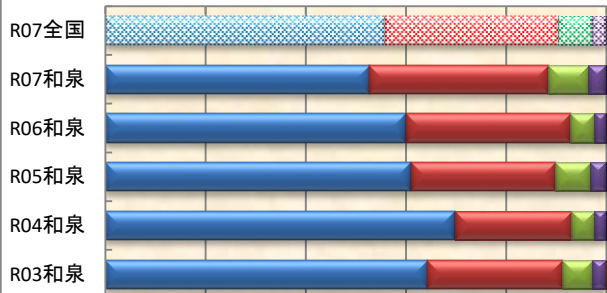
0% 20% 40% 60% 80% 100%



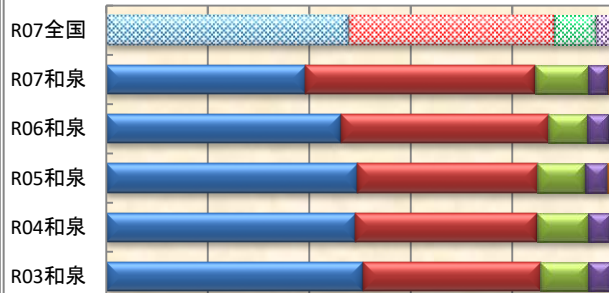
6-⑥ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役立つと思いますか



0% 20% 40% 60% 80% 100%



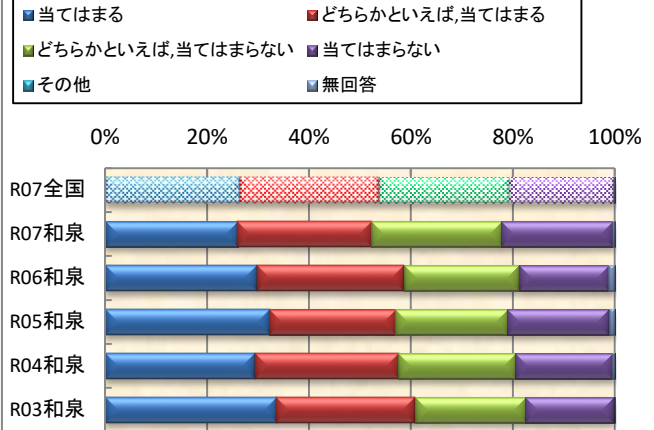
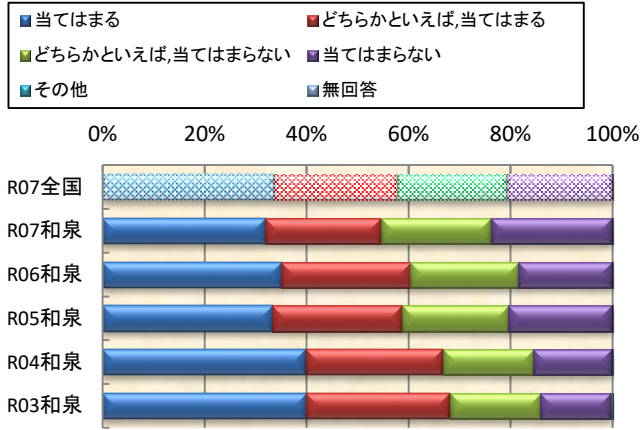
0% 20% 40% 60% 80% 100%



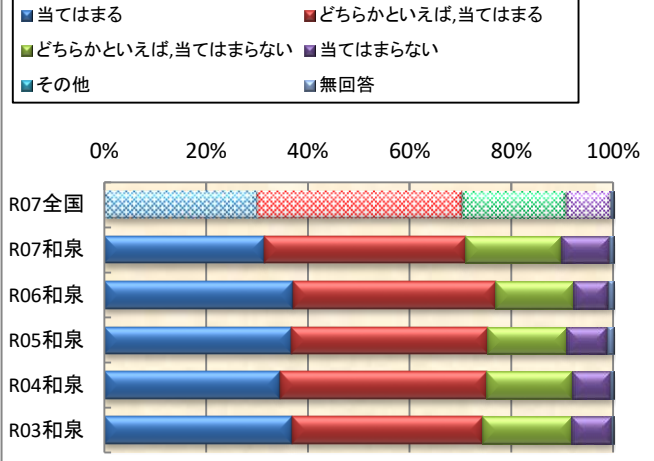
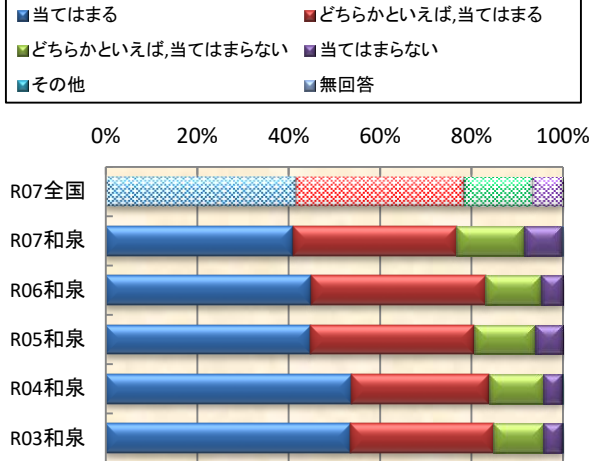
小学校

中学校

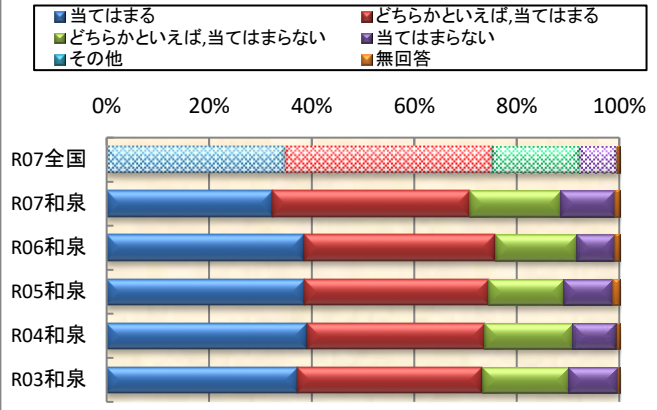
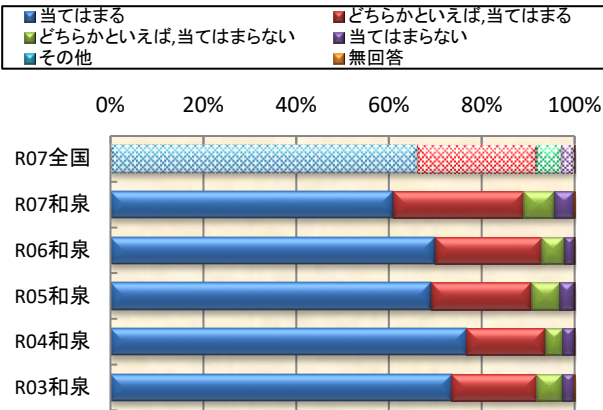
6-⑦ 算数・数学の勉強は好きですか



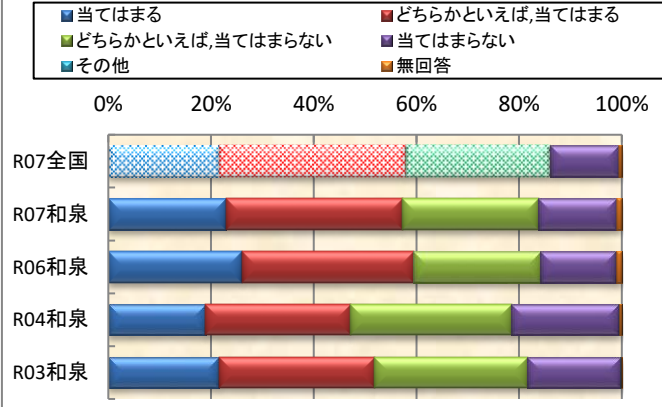
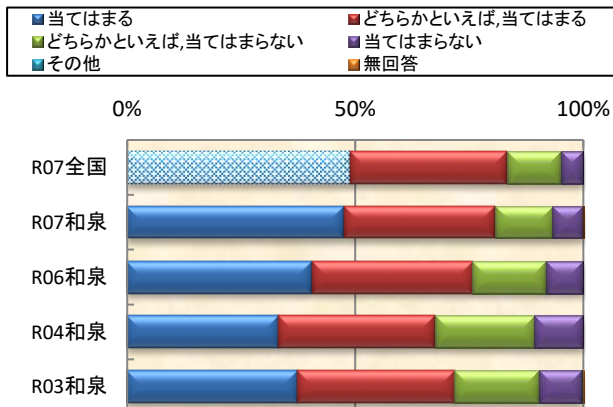
6-⑧ 算数・数学の授業の内容はよくわかりますか



6-⑨ 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか



6-⑩ 算数・数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか



◇6-①「これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいたか」の項目での肯定的な回答は、小・中学校ともに肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国と同水準となっています。6-②では、教育活動での発表の機会に、工夫をしながら発表していると回答した児童生徒の割合が全国を超えており、授業の中で自分の考えなどを発表する機会を多くもつことで、表現の工夫が身についてきていることを子ども自身が実感していると考えられます。6-③「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」の項目でも、小中ともに肯定的回答が全国を上回っています。

これらの結果から、授業の中で、児童生徒が自ら課題解決に向け、自分で考え、取り組んだことをふり返し、次の学習につなげながら学んでいることが分かります。教職員は引き続き、子どもたちの主体的に学びに向かう姿を意識した、指導・取組みを進めていくことが重要です。

◇国語・算数（数学）ともに、「学習したことは、将来、社会に出た時に役立つと思う」と回答した児童生徒の割合が、全国を下回っています。

子どもたち自身が、日々の授業の中で何ができるようになったのか自覚できるようメタ認知する機会を大切にする必要があります。そのためには、パフォーマンス課題などの実生活に即した課題等を設定し、獲得した知識・技能を活用し、課題を解決したり、新たな考えを創り上げたりする機会を充実させることで、知識・技能の習得だけにとどまらず、これからの未来を創る「資質・能力」を伸ばすことが重要です。

保護者の皆様へ

◎基礎的・基本的な知識・技能だけでなく、学んだことを活用する力や思考力・判断力・表現力等を含む確かな学力が、これからの社会を生きる子どもたちには求められています。

是非、ご家庭でもお子さまとの対話を大切にしながら、自ら考える習慣を身につけるために「どうしたい？どうする？どうして？どういうこと？なぜ？わけは？だから？」等、子どもたちの考える機会を生み出す声かけを意識してあげてください。

そして、子どもたちが生活の中で感じた疑問・質問と一緒に考える等、お子さまが、楽しく、主体的に学びに向かう中で、身につけた知識・技能を活用する機会を大切にしてください。